

第40回 公立小中学校栄養教諭・学校栄養職員研究大会報告

令和元年10月25日(金)、エスポワール愛媛文教会館において、専門職としての資質の向上を図り、学校給食を通して食に関する指導の充実に努めるために、公立小中学校栄養教諭・学校栄養職員研究大会が開催された。実践発表では専門職として災害時にどう関わるかを考えさせられ、指導講話、講演を通して、食に関する指導をどのように実践していけばよいか学んだ。

1 実践発表 「西日本豪雨災害時における給食施設を活用した炊き出しの実際」

発表者 西予市立野村中学校 栄養教諭 林 佳代 先生

昨年度の西日本豪雨災害の被災経験から給食施設を活用した炊き出しの実際について発表があった。完成間近であった新学校給食センターが被災し、電気や水道も使えない状況下、既存の施設において学校給食に使用予定であった食材を使つての避難所への炊き出しをしたことや給食センター職員の勤務の調整、関係各所との連絡・連携時系列に沿って紹介された。今後起こるかもしれない災害に備えて、行政や学校及び地域との連携の在り方や備蓄等の対応などについて学ぶ点が多くあった。実際に経験してみないとわからない大変な苦勞から、いつどこで起こるかかわからない災害に対し、学校給食に携わる者としてできることや備えておかないといけないことなどを考えることができた。



2 指導講話 『『生きる力』を育む食育の推進』

講師 愛媛県教育委員会保健体育課 指導主事 山市 知代 先生



国が目指している未来社会は、技術革新による経済の発展と社会の課題を解決する「人間中心の社会」であることから、新しい社会の到来をよりよく捉え、このような社会の中で「生き抜いていく」ことが今改めて子どもたちに求められる「生きる力」と考える。

「社会が抱える様々な課題」に対応して、学校教育では新しい時代に必要となる資質・能力の育成として、「学びに向かう力・人間性等」「知識・技能」

「思考力・判断力・表現力等」を3つの柱として挙げている。食に関する指導の目標も3つの柱にあてはまり、質的改善を行うようになる。

食に関する指導は単独で行うだけでなく、各教科等の特性を活かし、教科等横断的な視点で行うこともできる。あくまでも教科等のねらいを達成し、その上で「食育の視点」位置付けることによって、教科等の授業がより充実することを目指す。さらに給食の時間と関連させると効果的に行うことができる。

また、家庭教育への支援として、耳を傾けて欲しい保護者に届けるために、保護者自身が学ぶ場、子どもとともにできる体験の場を作ることによって変わっていくことができる。

一つ一つは点であってもそれぞれが実践していることをつなげて線となり広げていくことで面となる。各校でスクラムを組み進めて大きな一歩にしてほしい。

3 講演 「ダシの美味しさと健康」

講師 龍谷大学 農学部 食品栄養学科 教授 伏木 亨 先生

「和食」のルーツには、御膳料理といわれる料亭などで出される懐石料理と私たちが普段から食べている郷土料理・家庭の料理の二つがある。現代和食の条件としては、うま味をきかせた味わい軸、ごはんを中心に魚や野菜をたっぷり使う素材軸、主食のごはんと副食のおかずを交互に食べ、そこにお吸い物と香の物の形式軸があると考えられる。



海外のブイヨン等と比べて、日本のダシ昆布は、海で2年、陸で3年の歳月がかかり、かつお節は、6ヵ月以上の手間をかけて作られたものである。ダシは世界中にあるが、シンプルなうま味だけに特化した液体が日本の伝統であり、これが日本の美意識ともいえる。

また、和食のダシは、洋食や中華と違い純度の高いうま味だけであるため、素材を生かすことができる。ダシは食による快感の三つ（砂糖・油・ダシ）の一つであり、人は一度獲得した快感はやめられないため、小さい子どものうちからダシの美味しさを体験させておくと大人になった時にダシの美味しさを再認識することができる。

伝統の食は、引き継がれていかなければさびしいという思い、長い歴史の中に自分も生きられる自信と心地よさ、失うことの怖さ、この3つから大切にしていかなければならないと考えている。ダシの美味しさをしっかり次の世代、子どもたちに引き継いで欲しい。

4 参加者の感想より

実践発表について

- 被災され復興の最中の大変な中、貴重な発表をありがとうございました。
- 災害時に調理場で何ができるか、何を準備しておくべきか、考えさせられました。

講演について

- 子どもの時代の体験が大人になってまた「だし」の味に戻ってくると聞いて、改めて幼児期の食の体験が大切だと思いました。
- 昨年、給食の塩分量の基準量の減少に伴い、減塩につなげなくてはと思っていたので、おいしいだしをとり、だしのおいしさを伝えることで減塩にもつなげていきたいです。

全体を通して

- 今回は、特に給食センター関係者(委員会・所長・調理員等)にも参加していただきたいと感じました。近年、協働して研究を深めていく大切さ、必要性を痛感します。



愛媛県イメージアップキャラクター

「みきゃん」